

第 5 次加須市高齢者支援計画の進行管理 【令和 7 年度の実績と評価】

令和 8 年 7 月

□ 評価基準について	3・4ページ
□ 評価結果の概要	5～7ページ
□ 各事業（取組）の達成度評価	8～44ページ

第1章 高齢者の健康づくりと介護予防の推進

ページ

第1節 高齢者の健康づくり

No.1 生活習慣病の予防	8
No.2 健康相談	8
No.3 こころの健康づくり	9
No.4 感染症の予防・重症化の防止	9
No.5 骨粗しょう症の予防	10
No.6 成人歯科保健の推進	10
No.7 食育の推進	10
No.8 がん検診	11
No.9 国保健診（特定健康診査）等	11
No.10 人間ドック・脳ドックの利用促進	12

第2節 高齢者の介護予防

No.1 要介護状態となるおそれのある高齢者の把握	14
No.2 教室や講座などを活用した介護予防の啓発	14
No.3 筋力アップトレーニングの普及	14
No.4 通いの場（ふれあいサロン）の拡充	15
No.5 リハビリテーション専門職との連携の推進	15
No.6 多様な訪問・通所サービスの提供	15
No.7 生涯学習活動の推進	16
No.8 スポーツ教室の推進	16
No.9 グラウンド・ゴルフの推進	16
No.10 ウォーキングの推進	17
No.11 シルバー人材センターへの支援	17
No.12 高齢者の雇用促進	17
No.13 世代間交流の推進	18
No.14 高齢者の交流事業への支援	18
No.15 元気な高齢者のボランティア活動への参加の促進	18
No.16 学校応援団への参加の推進	19
No.17 生きがい農業の推進	19
No.18 老人クラブの活動支援	19
No.19 健康福祉センター等の活用	20

第3節 高齢者の健康づくりと介護予防の一体的な実施

No.1 高齢者保健事業と介護予防の一体的な実施	21
--------------------------	----

第2章 高齢者の日常生活を支える体制づくり

ページ

第1節 相談支援等の体制の充実

No.1 高齢者相談センター（地域包括支援センター）の体制の充実	22
No.2 相談窓口等の周知及び関係機関等との連携強化	22
No.3 地域ケア会議の活用の推進	22

第2節 高齢者福祉サービスの充実

No.1 敬老事業の推進	23
No.2 緊急通報システムの普及	23
No.3 配食サービスの普及	23
No.4 コミュニティバス等による高齢者の移動支援	24
No.5 生活困窮者等の自立の支援	24
No.6 介護サービスの利用に係る負担の軽減	24

第3節 家族介護者等（ケアラー）への支援の充実

No.1 家族介護者等の介護負担軽減のための支援	25
No.2 家族介護者慰労金の支給	25
No.3 家族介護用品の支給	25

第4節 高齢者の居住支援

No.1 高齢者の安定的な生活の場の確保	26
No.2 居宅環境の改善支援	26

第5節 地域で高齢者を支え合う仕組みづくり

No.1 自治協力団体の活動の促進	27
No.2 地域通貨を活用した地域福祉サービスの普及	27
No.3 地域ブロンズ会議の設置・活動の推進	27
No.4 地域の実情に応じた生活支援体制の整備	28
No.5 交通安全対策の推進	28
No.6 地域における防犯活動の推進	28
No.7 消費者被害の防止	28
No.8 協力事業者による見守り体制の構築	29
No.9 行方不明者の早期発見支援	29
No.10 災害時要援護者への支援	29
No.11 歩行に配慮を要する人のための駐車区画の適正利用の推進	29

第3章 認知症の人とその家族等にやさしい地域づくり

ページ

第1節 認知症に関する普及啓発・本人発信の支援

No.1 認知症への理解の促進	30
No.2 認知症に関する相談体制の周知	30
No.3 認知症の本人による発信機会の拡大	30

第2節 認知症予防活動の推進

No.1 教室や講座などを活用した介護予防の啓発【再掲】	31
No.2 通いの場（ふれあいサロン）の拡充【再掲】	31
No.3 生涯学習活動の推進【再掲】	31
No.4 スポーツ教室の推進【再掲】	31
No.5 グラウンド・ゴルフの推進【再掲】	31
No.6 ウォーキングの推進【再掲】	31
No.7 シルバー人材センターへの支援【再掲】	31
No.8 高齢者の雇用促進【再掲】	32
No.9 世代間交流の推進【再掲】	32
No.10 高齢者の交流事業への支援【再掲】	32
No.11 元気な高齢者のボランティア活動への参加の促進【再掲】	32
No.12 学校応援団への参加の推進【再掲】	32
No.13 生きがい農業の推進【再掲】	32
No.14 老人クラブの活動支援【再掲】	32

第3節 認知症の人とその家族等への支援

No.1 認知症ケアパスによる情報提供	33
No.2 認知症地域支援推進員による支援	33
No.3 認知症初期集中支援チームによる支援	33
No.4 関係機関の連携による切れ目のない支援	34
No.5 成年後見制度の利用促進	34
No.6 高齢者虐待の防止	34
No.7 認知症の人の日常生活への支援（チームオレンジの整備）	35
No.8 行方不明時の早期発見・保護	35
No.9 地域における防犯活動の推進【再掲】	35
No.10 消費者被害の防止【再掲】	35
No.11 認知症の人の社会参加の促進（認知症カフェの普及等）	36
No.12 認知症の特性を踏まえた介護サービスの提供・確保	36

第4章 在宅医療・介護サービス提供体制等の充実

ページ

第1節 在宅医療・介護連携の推進

No.1 在宅医療・介護連携の推進	37
-------------------	----

第2節 特別養護老人ホーム等の介護施設等の整備

No.1 特別養護老人ホーム等の介護施設等の整備	38
--------------------------	----

第3節 介護人材の確保及び介護現場の生産性の向上の推進等

No.1 介護人材の確保・定着及び資質の向上	39
No.2 介護現場の生産性の向上の推進等	39

第5章 高齢者の安心安全のための災害・感染症への備え

ページ

第1節 災害に対する備え

No.1 災害に対する備え	40
---------------	----

第2節 感染症に対する備え

No.1 感染症に対する備え	41
----------------	----

第6章 介護保険制度の安定的な運営

ページ

第1節 介護保険料の収納確保

No.1 介護保険料の収納確保	42
-----------------	----

第2節 介護給付の適正化

No.1 介護給付の適正化	43
---------------	----

評価基準について

1 各事業（取組）の達成度評価基準

＜＜評価基準＞＞

事業（取組）の実施状況及び事業実施による効果として、成果指標の達成状況により評価を行う。

評価	達成度評価基準
1 目標を達成	当該年度に実施すべき取組を予定どおり、計画的に行い、事業実施による効果が表れた。 「効果が表れた」とは、成果指標の実績値が目標値の100%以上に達し、当該年度の目標を達成したものをいう。
2 概ね達成	当該年度に実施すべき取組を円滑に行い、事業実施による効果が概ね表れた。 「効果が概ね表れた」とは、成果指標の実績値が目標値の80%以上に達したものをいう。
3 やや遅れている	当該年度に実施すべき取組を行ったものの、事業実施による効果が小さかった。 「効果が小さかった」とは、成果指標の実績値が目標値の80%未満となったものをいう。
4 大幅に遅れている	何らかの課題があり、事務事業が滞ってしまっており、事業実施による効果が表れなかった。 「効果が表れなかった」とは、成果指標の実績値が目標値の50%未満となったものをいう。

＜＜指標の設定がない場合の評価基準＞＞

事業（取組）の実施状況を判断基準として評価する。

評価	達成度評価基準
2 概ね達成	当該年度に実施すべき取組を円滑に行えた。
3 やや遅れている	当該年度に実施すべき取組のうち、いくつか遅れが生じている。
4 大幅に遅れている	何らかの課題があり、事務事業が滞ってしまっている。

2 基本目標レベル（大分類）での達成度評価基準

《評価基準》

各事業（取組）の達成度評価の結果を基に、次の評価基準で判定する。

評価	達成度評価基準
① 計画どおり達成できた	基本目標に係る全ての事業（取組）において達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」であった。
② 概ね達成できた	事業の達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」となった事業数の割合が80%以上であった。
③ やや達成できなかった	事業の達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」となった事業数の割合が80%未満であった。
④ 達成できなかった	事業の達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」となった事業数の割合が50%未満であった。

3 計画全体の成果判断基準

《評価基準》

次の成果判断基準に基づき、基本目標レベルごとに設定した数値目標に対する実績値で成果の状況を判定する。

評価	成果判断基準
A 非常に成果があった	全ての数値目標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合。 「大いに成果が得られたとみなせる」とは、設定した全ての数値目標の実績値が目標値を100%以上達したものをいう。
B 相当程度成果があった	一部の数値目標が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合。 「概ね成果が得られたとみなせる」とは、数値目標の実績値がいずれも目標値の80%以上達したものをいう。
C 一定の成果があった	数値目標の達成状況は芳しくなかったものの、取組として前進したとみなせる場合。 「数値目標の達成状況は芳しくなかった」とは、数値目標の実績値が目標値の80%未満となったものをいう。
D 成果がなかった	数値目標と実績値に大幅な乖離があり、取組として前進したとは言い難い場合。 「数値目標と実績値に大幅な乖離がある」とは、数値目標の実績値がいずれも目標値の50%未満となったものをいう。

評価結果の概要

1 基本目標レベル(大分類)での達成度評価

基本目標（大分類）	評 価	理 由
1 高齢者の健康づくりと介護予防の推進	③ やや達成できなかった	取組の達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」となった取組数の割合が79.5%（31/39取組）と、80%未満にとどまったため。
2 高齢者の日常生活を支える体制づくり	② 概ね達成できた	取組の達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」となった取組数の割合が81.5%（22/27取組）と、80%以上であったため。
3 認知症の人とその家族等にやさしい地域づくり	③ やや達成できなかった	取組の達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」となった取組数の割合が73.3%（22/30取組）であったため。
4 在宅医療・介護サービス提供体制等の充実	③ やや達成できなかった	取組の達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」となった取組数の割合が50%（3/6取組）と、80%未満にとどまったため。
5 高齢者の安心安全のための災害・感染症への備え	① 計画どおり達成できた	全ての取組（4/4取組）の達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」となったため。
6 介護保険制度の安定的な運営	② 概ね達成できた	取組の達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」となった取組数の割合が83.3%（5/6取組）と、80%以上であったため。

2 基本目標レベル(大分類)ごとに設定した目標値に対する評価

No.	基本目標（大分類）	評 価	目標指標・目標値・実績	
1	高齢者の健康づくりと介護予防の推進	B 相当程度成果があった	目標指標・目標値	65歳からの健康寿命をさらに延伸します。 目標値（令和8年度）：延伸（参考）令和4年度：（男性）17.86歳、（女性）20.67歳
			令和6年度実績（最新値）	（男性）17.89歳、（女性）20.50歳
			目標指標・目標値	第1号被保険者のうち要介護3以上の認定を受けている人の割合（要介護3以上の認定率）を埼玉県平均（6.6%）以下の6.5%にします。 目標値（令和8年度）：6.5%（参考）令和4年度：6.9%
			令和7年度実績	6.2%
2	高齢者の日常生活を支える体制づくり	C 一定の成果があった	目標指標・目標値	高齢者相談センターの認知度を向上させ、85.0%にします。 目標値（令和8年度）：85.0%（参考）令和5年度：70.0%
			令和7年度実績	67.2%
			目標指標・目標値	地域ブロンズ会議の認知度を向上させ、73.0%にします。 目標値（令和8年度）：73.0%（参考）令和5年度：58.0%
			令和7年度実績	56.2%
3	認知症の人とその家族等にやさしい地域づくり	B 相当程度成果があった	目標指標・目標値	認知症を正しく理解し、地域において認知症の人とその家族などを応援する認知症サポーターの養成人数（累計）を7,400人以上にします。 目標値（令和8年度）：7,400人（参考）令和5年度：6,200人
			令和7年度実績	6,766人
			目標指標・目標値	すべての日常生活圏域（全6箇所）にチームオレンジを設置し、チームオレンジに参加してより実践的な支援を行う認知症サポーターを60人養成します。 目標値（令和8年度）：6箇所・60人（参考）令和5年度：3箇所・40人
			令和7年度実績	4箇所・51人
4	在宅医療・介護サービス提供体制等の充実	B 相当程度成果があった	目標指標・目標値	「北彩あんしんリング」で多職種による情報共有が行われている患者数を20人増やし、40人にします。 目標値（令和8年度）：40人（参考）令和5年度：20人
			令和7年度実績	47人
			目標指標・目標値	新たに介護施設などに従事する介護人材を220人確保し、市内の介護施設などに従事する介護職員などの数を2,290人にします。 目標値（令和8年度）：2,290人（参考）令和5年度：2,070人
			令和7年度実績	2,199人
			目標指標・目標値	市内に所在する介護サービス事業所の数を12箇所増やし、104箇所にします。 目標値（令和8年度）：104箇所（参考）令和5年度：92箇所
			令和7年度実績	95箇所
5	高齢者の安心安全のための災害・感染症への備え	B 相当程度成果があった	目標指標・目標値	災害時要援護者名簿に登録されている人のうち、避難援助者がいる人の割合を49.0%に引き上げます。 目標値（令和8年度）：49.0%（参考）令和5年度：46.0%
			令和7年度実績	46.3%
			目標指標・目標値	市内のすべての介護施設などで、非常災害対策と感染症対策が実施されるようにします。 目標値（令和8年度）：100%（参考）令和5年度：98.5%
			令和7年度実績	100.0%
6	介護保険制度の安定的な運営	B 相当程度成果があった	目標指標・目標値	介護保険料（全体）の収納率を98.6%に引き上げます。 目標値（令和8年度）：98.6%（参考）令和5年度：97.6%
			令和7年度実績	98.6%
			目標指標・目標値	健康づくりと介護予防の取組を推進するとともに、介護給付の適正化に取り組むことにより、介護給付費を抑制し、1人当たり介護給付月額を埼玉県平均に近づけます。 目標値（令和8年度）：106.2%（参考）令和4年度：109.2%
			令和7年度実績	108.5%

3 計画全体の成果判断

成 果	理 由
C 一定の成果があった	■ 5ページの「1」のとおり、基本目標レベル（大分類）での達成度評価は、6つのうち3つの基本目標で「計画どおり達成できた」又は「概ね達成できた」という結果となった。なお、「やや達成できなかった」と評価した3つの基本目標のうち2つは、7割以上8割未満の取組について「目標を達成」又は「概ね達成」であった。 ■ 6ページの「2」のとおり、基本目標レベル（大分類）ごとに設定した目標値に対する実績は、6つの全ての基本目標で「非常に成果があった」、「相当程度成果があった」又は「一定の成果があった」という結果となった。 ■ 以上のことから、各事業（取組）による一定の成果が得られたと考えられるため、計画全体の成果判断を左記のとおりとする。

■各事業（取組）の達成度評価

第1章 高齢者の健康づくりと介護予防の推進

第1節 高齢者の健康づくり

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等
1	生活習慣病の予防	1・ 目標を達成	指標(単位)	生活習慣病予防講座等(健康講座)への65歳以上の延べ出席者数(人)			・引き続き、健診等の保健事業の機会を積極的に活用し、講座等を開催することで、健康に関する正しい知識の普及啓発や生活習慣を見直すきっかけづくりを行っていく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	740	750	760	
			実 績	883	839		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】				
			・介護予防事業の教室と一体化した生活習慣病予防講座を各地域にて開催した。（医師出前講座、運動、栄養、歯の講座、病態別出前講座等） ・eスポーツ教室の開催、コバトンALKOOマイレージの実施、健康手帳の交付（新40歳への郵送等）、各地域の健康まつりの開催を行った。 ・公共施設の敷地内禁煙の継続、飲酒・喫煙の害の啓発を行った。 ・上記取組を実施し、実績値が目標値に達していることから、本評価とした。				
2	健康相談	3・ やや遅れている	指標(単位)	重点健康相談利用率(%) ※重点健康相談の利用定員に対する利用者数の割合			・引き続き、健診等の保健事業の機会やホームページ、広報にて周知を行い、健康相談への参加を促していく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	100	100	100	
			実 績	138.0	62.2		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】				
			・重点健康相談：全7回（生活習慣病予防相談5回、骨粗しょう症予防相談2回）実施 ・総合健康相談：適宜窓口や電話にて対応 ・骨粗しょう症検診の受診者のみを骨粗しょう症予防相談の対象としたことにより、前年度よりも対象者が限られ利用率が減少したため、本評価とした。				

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等
3	こころの健康づくり	1・ 目標を達成	指標(単位)	こころの健康相談利用率(%) ※こころの健康相談の利用定員に対する利用者数の割合			・今後も広報等で周知し、希望者が相談できる体制を維持する。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	78.0	79.0	80.0	
			実 績	95.6	90.3		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・市のホームページに、こころの体温計の掲載を継続し、こころの健康づくりへの意識づけに努めた結果、利用率が目標値を上回ったため本評価とした。				
4	感染症の予防・重症化の防止	2・ 概ね達成	指標(単位) ①	高齢者インフルエンザ予防接種接種率(%) ※65歳以上の人のうち、高齢者インフルエンザ予防接種を受けた人の割合			・接種により、罹患リスクが下がることから、接種率の向上に向けた周知に努めていく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	57.5	58.0	58.5	
			実 績	51.2	51.5		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・接種日において65歳以上または身体障害者手帳1級相当の60歳から64歳の市民が、委託先で接種する際の費用の一部を助成（自己負担1,000円） ・インフルエンザの罹患や流行の防止につなげるため、SNS、チラシ、広報等により制度の周知を図った。 ・上記取組などの効果により、感染予防意識が高まった結果、実績値が目標値の8割以上に達していることから、本評価とした。				
		3・ やや遅れている	指標(単位) ②	高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種接種率(%) ※接種時点で65歳で接種歴のない人のうち、高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種を受けた人の割合			・引き続き、チラシ配布、広報紙掲載、勧奨はがきの送付等を行うことにより、対象者への広い周知に努めていく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	40.0	45.0	50.0	
			実 績	28.1	33.9		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・市内の委託医療機関において、国が示す定期接種対象者に加須市独自対象者を加え、接種時点で65歳以上であり接種歴のない方全員を対象に接種費用の一部を助成した。（自己負担3,000円） ・接種時点で65歳となる方に接種の勧奨はがきを送付した。 ・接種率が目標値の8割未満だったことから本評価とした。				

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等		
5	骨粗しょう症の予防	1・ 目標を達成	指標(単位)	骨粗しょう症検診対象者(40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳及び70歳女性)のうち、同検診受診者の割合(%)				・骨粗しょう症検診対象者以外の市民に対しては、健康まつりにて骨密度測定を実施予定 ・健康相談や健康教育などの他事業と連携しながら、要指導・要精検判定者のフォローアップを行う。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	15.5		16.0			16.5
			実 績	16.6		17.0			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・受診勧奨はがきの送付やWEB予約を導入するなど、対象者への意識づけや環境づくりを行い、目標値を達成したことから本評価とした。						
6	成人歯科保健の推進	1・ 目標を達成	指標(単位)	成人歯科検診受診者のうち、歯肉炎・歯周病を有する65歳以上の人の割合(%)				・引き続き、成人歯科検診を周知し、事業を実施していく。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	70		70			70
			実 績	50.8		58.8			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・成人歯科検診、8020よい歯のコンクール健診の実施 ・健康講座やホームページにおいて、お口の健康についての普及啓発を実施 ・上記取組などの効果により、目標値を達成したため本評価とした。						
7	食育の推進	1・ 目標を達成	指標(単位)	塩分のとり方に注意していることがある人の割合(%) ※保健事業などで実施した塩分チェックシートに回答のあった人のうち、「塩分のとり方に注意している」と回答した人の割合				・保健事業において、塩分チェックシートと減塩の工夫をまとめたチラシを活用し、塩分を控えることの大切さを啓発していく。 ・減塩プロジェクトの一環で作成したポスター及びPOPをスーパーマーケットや直売所等に設置し、周知を図る。 ・出前講座、栄養講座及び食生活改善推進員育成研修等で減塩に関するテーマを積極的に取り入れていく。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	69.0		70.0			70.0
			実 績	86.7		78.1			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・各保健事業を通じて塩分チェックシートを実施し、616枚の回答を得ることができた。健康講座や健康相談、イベントなどの機会では必ず高血圧予防について普及啓発を行ったことにより、目標を達成できたことから本評価とした。						

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等	
8	がん検診	1・ 目標を達成	指標(単位)	市町村がん検診事業の評価結果(県内市町村ランキング)(位)				・現在の各取組を継続して実施していく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	8	7	7		
			実 績	9	5			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・がん検診受診券(けんしんパスポート)をわかりやすい内容に変更 ・検診申込時、対象の検診全てを勧める対応で統一 ・胃がん検診(胃内視鏡検査)自己負担額を3,000円、乳がん検診自己負担額を無料とした。 ・集団検診のWEB予約を実施 ・SNS等での受診勧奨の実施 ・未受診者への再勧奨通知の発送 ・加須市ピンクリボン運動の実施					
9	国保健診（特定健康診査）等	3・ やや遅れている	指標(単位) ①	国保検診(特定健康診査)受診率(%) ※国保検診(特定健康診査)の対象者(国民健康保険加入者で40歳から74歳までの人)のうち、国保検診(特定健康診査)を受けた人の割合				・受診券のパンフレットを見やすく変更
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	・引き続き、AIによる対象者選出、対象者に合わせた個別の受診勧奨や電話による受診勧奨を実施	
			目 標	50	60	60		
			実 績	40.3	40.0（暫定値）			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・4月下旬に受診券を個別送付 ・図書館の貸出レシートへの掲載や関連図書の展示、モニター掲示 ・医療機関へのポスター掲示やチラシ配布 ・AIによる対象者選出、対象者に合わせた個別の受診勧奨、電話による受診勧奨 ・上記取組を実施したが、実績値が未確定の状態であるため、目標値に対し、やや遅れている状況であると考えられる。				・広報やホームページを利用した勧奨や、医療機関と連携した受診勧奨を継続して実施 ・特定健康診査の受診率向上のため、全庁的な取組を実施	
		2・ 概ね達成	指標(単位) ②	後期高齢者健診受診率(%) ※後期高齢者健康診査の対象者(75歳以上の後期高齢者医療保険加入者)のうち、後期高齢者健康診査を受けた人の割合				・広報やホームページを利用した受診勧奨を実施する。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	・受診勧奨として、未受診者にはがきを郵送し、受診を促していく。	
			目 標	33.0	36.0	39.0		
			実 績	31.0	31.6（暫定値）			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・後期高齢者等を対象に、無料で健康診査を実施 ・診査項目は質問票、身体計測、血圧測定、診察、尿検査、血液検査、その他医師の判断等により心電図・眼底検査実施 ・健康診査受診券の送付 ・集団健診のWEB予約や休日コールセンターを実施 ・上記取組を実施した結果、昨年度より受診率が向上し、目標値の8割を達成できた。				・集団検診申し込みの際に、がん検診と合わせて受診するよう勧める。	

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等
10	人間ドック・脳 ドックの利用促進	2・ 概 ね 達 成	指標(単位)①		国民健康保険人間ドック受診者数(人)		・引き続き、ホームページや広報紙への掲載、窓口でのパンフレットによる案内、納税通知書へのチラシの同封などにより、制度の周知を図る。 ・特定健康診査と同様に、受診率の向上を図り、医療費抑制に繋げる必要がある。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	800	800	800	
			実 績	679	642		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】				
		・ホームページや広報紙への掲載、窓口でのパンフレットによる案内、納税通知書へのチラシの同封などにより、制度の周知を図った。 ・後期高齢者の増加等に伴い、国民健康保険の被保険者数が減少傾向にあり、人間ドックの受診者数も昨年度から減少したものの、目標値の8割に達しているため本評価とした。					
		1・ 目 標 を 達 成	指標(単位)②		国民健康保険脳ドック受診者数(人)		・引き続き、ホームページや広報紙への掲載、窓口でのパンフレットによる案内、納税通知書へのチラシの同封などにより、制度の周知を図る。 ・特定健康診査と同様に、受診率の向上を図り、医療費抑制に繋げる必要がある。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	20	20	20	
			実 績	34	21		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】				
		・ホームページや広報紙への掲載、窓口でのパンフレットによる案内、納税通知書へのチラシの同封などにより、制度の周知を図った。 ・後期高齢者の増加等に伴い、国民健康保険の被保険者数が減少傾向にあり、人間ドックと脳ドックの併診を推奨していることから、脳ドックの受診者数は昨年度から減少したものの、目標値を超えているため本評価とした。					
		1・ 目 標 を 達 成	指標(単位)③		国民健康保険併診ドック受診者数(人)		・引き続き、ホームページや広報紙への掲載、窓口でのパンフレットによる案内、納税通知書へのチラシの同封などにより、制度の周知を図る。 ・特定健康診査と同様に、受診率の向上を図り、医療費抑制に繋げる必要がある。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	80	80	80	
			実 績	171	138		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】				
		・ホームページや広報紙への掲載、窓口でのパンフレットによる案内、納税通知書へのチラシの同封などにより、制度の周知を図った。 ・後期高齢者の増加等に伴い、国民健康保険の被保険者数が減少傾向にあり、併診ドックの受診者数も昨年度から減少したものの、併診ドック受診者数は目標値を超えたため本評価とした。					
		1・ 目 標 を 達 成	指標(単位)④		後期高齢者医療保険人間ドック受診者数(人)		・高齢層の被保険者が増加傾向にあることを踏まえ、今後もドック全体の受診者数の増加が見込まれる。 ・特定健康診査と同様に、受診率の向上を図り、医療費抑制に繋げる必要がある。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	192	192	192	
			実 績	232	274		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】				
		・ホームページや窓口でのパンフレットを用いた案内により制度の周知を図った。 ・団塊の世代が75歳以上となり、被保険者数が増加したことや令和4年6月に済生会加須病院が開院し、令和5年度より併診ドック利用が可能となったこと、令和7年度から受診医療機関が8から10へ増加したことを背景に受診者数が増加し、目標値を超えたため本評価とした。					

1・ 目標を達成	指標(単位)⑤	後期高齢者医療保険脳ドック受診者数(人)			・ 高齢層の被保険者が増加傾向にあることを踏まえ、今後もドック全体の受診者数の増加が見込まれる。 ・ 特定健康診査と同様に、受診率の向上を図り、医療費抑制に繋げる必要がある。
	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	目 標	12	12	12	
	実 績	26	14		
	【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・ ホームページや窓口でのパンフレットを用いた案内により制度の周知を図った。 ・ 団塊の世代が75歳以上となり、被保険者数が増加したことや令和4年6月に済生会加須病院が開院し、令和5年度より併診ドック利用が可能となったことで受診者数が増加し、目標値を超えたため本評価とした。				
1・ 目標を達成	指標(単位)⑥	後期高齢者医療保険併診ドック受診者数(人)			・ 高齢層の被保険者が増加傾向にあることを踏まえ、今後もドック全体の受診者数の増加が見込まれる。 ・ 特定健康診査と同様に、受診率の向上を図り、医療費抑制に繋げる必要がある。
	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	目 標	24	24	24	
	実 績	80	66		
	【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・ ホームページや窓口でのパンフレットによる案内により制度の周知を図った。 ・ 団塊の世代が75歳以上となり、被保険者数が増加したことや令和4年6月に済生会加須病院が開院し、令和5年度より併診ドック利用が可能となったことで受診者数が増加し、目標値を超えたため本評価とした。				

第2節 高齢者の介護予防

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等	
1	要介護状態となる おそれのある高齢 者の把握	2・ 概 ね 達 成	指標(単位)	健康状態の把握を行った高齢者の数(人)				・引き続き、要介護状態等となる可能性の高い高齢者や潜在的に支援が必要な可能性の高い高齢者を把握し、専門職による個別支援等を行う。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	2,050	2,100	2,150		
			実 績	2,150	2,010			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】					
・後期高齢者の質問票を活用して網羅的な健康状態の把握と抽出者への継続的な個別支援を実施した。(200件) ・ひとり暮らし高齢者等で要介護認定を受けていない高齢者宅を高齢者相談センターの専門職が訪問し、健康状態や介護予防等についてアウトリーチ型の総合相談を実施した。(1,810件)								
2	教室や講座などを活用した介護予防の啓発	2・ 概 ね 達 成	指標(単位)	介護予防普及啓発事業の延べ参加者数(人)				・地域リハビリテーション・ケアサポートセンターや高齢者相談センター等の専門職と連携して実施していく。 ・低栄養や口腔ケアについて普及啓発を行う。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	2,900	3,000	3,100		
			実 績	2,706	2,606			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】					
・介護予防普及啓発事業、介護予防教室(わかめ倶楽部)、いきいき長寿保健事業によるポピュレーション支援、筋力アップトレーニング事業の新时期養成・自主グループ支援・スキルアップ講座を開催した。 ・地域リハビリテーション・ケアサポートセンターや高齢者相談センターと連携し、介護予防サポーター養成講座及びふれあいサロンへの巡回支援を実施した。 ・上記の取組により、目標の8割を超える参加者数を達成することができた。								
3	筋力アップトレーニングの普及	2・ 概 ね 達 成	指標(単位)	事業修了者と自主活動者数(累計)(人)				・体力測定や体組成測定の結果だけではなく、生活習慣に即した具体的な目標とし、個別支援を実施していく。 ・教室終了後も運動を継続できるよう、自主グループへの移行支援及び活動の後方支援を行っていく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	1,400	1,450	1,500		
			実 績	1,383	1,432			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】					
・個別運動プログラムに基づき、筋力トレーニングと有酸素運動を取り入れたトレーニングを週1回開催した。 ・筋力アップトレーニング教室修了生が運動を継続できるよう後方支援を実施した。 ・上記の取組により、概ね目標と同程度の実績を達成することができた。								

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等		
4	通いの場（ふれあいサロン）の拡充	2・概ね達成	指標(単位)	ふれあいサロンの設置数(箇所)				・高齢者相談センターと連携し、新規ふれあいサロンの開設と継続支援を行う。 ・介護予防サポーターの養成と活動支援及び健康づくりサポーターの派遣を行う。 ・医療専門職による講座を実施し、フレイル予防を推進する。 ・地域リハビリテーション・ケアサポートセンターと連携の上、理学療法士による巡回支援を実施し、ロコモティブシンドローム予防を推進していく。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	150		156			162
			実 績	136		142			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・新規ふれあいサロンの開設や活動の継続支援 ・介護予防サポーター及び健康づくりサポーターの活動支援 ・実績値が目標値の8割以上に達していることから本評価とした。						
5	リハビリテーション専門職との連携の推進	1・目標を達成	指標(単位)	リハビリテーション専門職との連携回数(回)				・介護予防を推進する観点から、県の地域リハビリテーション支援制度等を活用し、市内医療機関及びリハビリテーション専門職と連携した事業を展開していく。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	39		39			39
			実 績	44		45			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・自立支援型地域ケア会議や介護予防サポーター会議を開催した。 ・地域リハビリテーション・ケアサポートセンターと連携し、ふれあいサロンへの巡回支援、筋力アップトレーニング事業や介護予防サポーター養成講座での講話を実施した。 ・上記の取組により、リハビリテーション専門職の参画が目標値を上回ったことから本評価とした。						
6	多様な訪問・通所サービスの提供	2・概ね達成	指標(単位)	訪問・通所サービスの提供事業所数・提供団体数・利用定員数の合計(箇所・団体・人)				・介護予防・生活支援サービス提供事業所を確保する。 ・委託事業者による短期集中型通所サービスの提供を実施する。 ・生活機能の低下がみられる高齢者の利用勧奨を行う。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	112		116			120
			実 績	100		103			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・介護予防・生活支援サービス事業所（指定事業所）による訪問・通所サービスの提供 ・委託事業者による短期集中型通所サービスの実施 ・市内の指定事業所数等が目標値の8割以上に達していることから本評価とした。						

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等		
7	生涯学習活動の推進	2・概ね達成	指標(単位)	シニアいきいき大学受講生の受講率(%)				・平成国際大学と調整、連携を図りながら、講義の内容を検討し、シニア層の市民の学習活動の場を提供していく。 ・学習後、地域のリーダーや地域ボランティア、生涯学習市民企画委員等への積極的な参画を促進していく。 ・「平成国際大学いきいき大学同窓会」及び期別ごとの自主活動サークルの円滑な活動に向けた支援を行うとともに、卒業後の自主活動サークル結成に向けた支援を行う。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	90.0		90.0			90.0
			実 績	85.3		83.3			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・7月から2月にかけて講義を実施（2学部×10回） 受講生：自然科学部50名、社会科学部60名 ・受講率が目標値の8割以上に達していることから本評価とした。						
8	スポーツ教室の推進	1・目標を達成	指標(単位)	65歳以上の人が参加できるスポーツ教室の開催回数(回)				・引き続き、65歳以上の高齢者がスポーツを通じた健康づくりができる教室を開催する。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	10		11			12
			実 績	9		12			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・ボッチャ体験会や健康アップ講座、ニュースポーツ教室など、こどもから高齢者まで幅広く参加できる内容の教室を、体育館や屋外施設などを活用して開催し、目標を達成することができた。						
9	グラウンド・ゴルフの推進	2・概ね達成	指標(単位)	65歳以上のグラウンド・ゴルフの競技人口(人) ※競技人口は、加須市スポーツ協会及び加須市レクリエーション協会加盟者				・競技団体と連携し、スポーツを通じた健康づくりの推進のため、多くの方が協議に参加できるよう工夫を凝らした事業の実施を検討する。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	1,300		1,350			1,400
			実 績	1,076		1,212			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・高齢者を中心に気軽にできるグラウンド・ゴルフは、市内各地の愛好者をはじめ、年間を通じて多くの方が競技を楽しんでおり、目標値の8割以上の実績値となったことから、本評価とした。						

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等		
10	ウォーキングの推進	2・概ね達成	指標(単位)	健康づくりウォーキング大会の開催回数(回) ※市、市スポーツ協会、地区スポーツ協会主催大会の開催回数				・より多くの市民が参加できるように、様々な工夫を凝らした大会の開催を検討する。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	14		14			14
			実 績	11		12			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・市やスポーツ協会が主催者となり、市内各地で多くの市民が参加するウォーキング大会を開催することができた。 ・雨天により複数の大会が中止となったが、目標の8割を達成したため、本評価とした。						
11	シルバー人材センターへの支援	1・目標を達成	指標(単位)	シルバー人材センターの会員数(人)				・引き続き、シルバー人材センターの経営安定化を図るため、運営の支援を行うとともに、①新会員の確保、②受託業務の確保、③就業機会の拡大、④会員の技能習得・向上等について、必要に応じて助言・指導等を行う。 ・多様なメニューを市民に提供することで、就業機運を高め就業希望者の掘り起こしを行う。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	975		1,000			1,030
			実 績	1,002		1,029			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・シルバー人材センターの運営を支援するとともに、理事会等に出席し、助言、指導及び事業協力を行った。また、シルバー人材センターの会員数が目標値に達していることから本評価とした。						
12	高齢者の雇用促進	4・大幅に遅れている	指標(単位)	埼玉しごとサポートを活用した就職者数(人)				・引き続き、関係機関と連携し、就業支援セミナーや相談会を開催し、さらなる就業支援事業の充実を図る。 ・多様なメニューを市民に提供することで、就業機運を高め、就業希望者の掘り起こしを行う。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	65		67			69
			実 績	42		28			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・関係機関と連携し、就業支援セミナーや相談会を開催するとともに、就業支援に関する情報を広報かぞ、市ホームページやメール配信により市民に対し広く提供した。しかしながら、埼玉しごとサポートを活用した就職者数が目標の5割未満であったため、本評価とした。						

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等		
13	世代間交流の推進	3・ やや遅れている	指標(単位)	地域交流事業への一般参加者数(人)				・休会する地区愛育班が増えているため、活動を継続している愛育班が支援を継続していく。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	1,200		1,700			2,200
			実 績	815		883			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・事業の実施回数が令和6年度の28回から33回へ増加したものの、感染症予防を意識し、1回当たりの定員をコロナ禍前までは戻さず実施したことにより、参加人数が目標値の8割未満となったことから本評価とした。						
14	高齢者の交流事業 への支援	3・ やや遅れている	指標(単位)	社会福祉協議会が実施する地域交流事業への延べ参加者数(人)				・補助事業のあり方について、社会福祉協議会とともに検討する。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	1,920		1,920			1,920
			実 績	1,240		1,158			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・社会福祉協議会に補助金を交付し、同協議会が実施する「ひとり暮らし高齢者地域交流事業」を推進したが、開催回数が59回、参加者数が1,158人に留まったことから本評価とした。						
15	元気な高齢者のボランティア活動への参加の促進	1・ 目標を達成	指標(単位)①	市民活動ステーションの高齢者支援活動団体登録数(団体)				・引き続き、市民活動ステーションと連携し、ボランティア活動団体の支援を行うとともに、登録団体の増加に努める。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	35		36			37
			実 績	42		42			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・市と市民活動ステーションとの連携のもと、団体からの相談や育成支援などに取り組み、高齢者支援団体登録数が目標値を上回ったことから、本評価とした。						
		1・ 目標を達成	指標(単位)②	シニアボランティアポイント事業の実施				・参加者向け説明会の開催や市ホームページなどで広く周知し、事業効果を浸透させていく必要がある。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	事業設計		事業開始			事業実施
			実 績	事業設計		事業開始			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・高齢者が市内の介護保険施設等で行うボランティア活動を通じて、社会参加や地域貢献することを支援し、本人の健康づくりと介護予防を推進するとともに、介護人材の不足が懸念される介護施設等の支援を図ることを目的とし、「シニアボランティアポイント事業」を開始した。						

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等
16	学校応援団への参加の推進	3・やや遅れている	指標(単位)	学校応援団の登録者数(人)			・学校や地域に働きかけ、学校応援団の新規登録のための啓発を行う。 ・学校運営協議会の活動と関わりを深める。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	4,300	4,300	4,300	
			実 績	2,703	2,695		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・学校応援団の高齢化や新規登録者が減っているため、学校応援団登録者は減少しているものの、学校に対して協力的な市民は多く、学校と地域で連携して教育活動を推進している。				
17	生きがい農業の推進	1・目標を達成	指標(単位)	農業体験講座などへの65歳以上の人の延べ参加者数(人)			・引き続き、関係機関と連携し、各種講座等の市民への周知を行う。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	145	150	155	
			実 績	247	198		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・グリーンファーム加須にて、サツマイモ収穫体験、加工講座（手づくり豆腐、手打ちそば、手づくりこんにゃく）を実施 ・北川辺ライスパークにて、田んぼオーナーによる各種体験、サツマイモ収穫体験、加工講座（手打ちそば、まんじゅう作り）、親子農業体験を実施 ・実績値が目標値に達したことから本評価とした。				
18	老人クラブの活動支援	2・概ね達成	指標(単位)	老人クラブ加入率(%) ※60歳以上の人のうち老人クラブの会員になっている人の割合			・新規会員の更なる獲得に向けて、老人クラブの活動内容を周知していく必要がある。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	8.0	8.0	8.0	
			実 績	7.1	6.8		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・老人クラブ会員の高齢化等に伴い、会員数の減少があるものの、実績値が目標値の8割以上に達しており、実施すべき取組を円滑に行ったため本評価とした。				

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等	
19	健康福祉センター 等の活用	2・概ね達成	指標(単位)	健康福祉センター等の総利用者数(人)				・各健康福祉センター、大利根総合福祉会館について、高齢者の仲間づくりや健康づくりの場として、さらなる活用を図る。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	32,000	32,000	32,000		
			実 績	20,264	27,509			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】					
			・高齢者の仲間づくり・健康づくりの場や、保険事業と介護予防の一体的な実施の場として、各健康福祉センターを活用 ・前年度の実績値を上回り、総利用者数が目標値の8割以上に達していることから本評価とした。					
			〔参考〕令和7年度総利用者数の内訳 ・騎西健康福祉センター 5,390人 ・北川辺健康福祉センター 4,307人 ・大利根健康福祉センター 9,114人 ・大利根総合福祉会館 8,698人					

第3節 高齢者の健康づくりと介護予防の一体的な実施

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等		
1	高齢者保健事業と 介護予防の一体的 な実施	2・概 ね達 成	指標(単位)	個別支援対象者に対する保健指導の実施率(%) ※個別支援の対象とした人のうち、保健指導を実施できた人の割合				・引き続き、管理栄養士、歯 科衛生士、保健師等の医療専 門職による低栄養、口腔機能 低下、生活習慣病重症化予防 に該当する方への個別支援や ふれあいサロン等の通いの場 を活用したフレイル予防の健 康教育、フレイルチェックを 行う。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	100		100			100
			実 績	90.2		86.8			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】						
		・KDBシステムを活用したデータ分析と地域の健康課題の把握、重点課題の明確化及び事業評価を実施				・引き続き、ふれあいサロン や筋力アップトレーニング自 主グループ等の通いの場を活 用したフレイル予防の健康教 育、フレイルチェックを行 う。			
		・医療専門職によるハイリスク対象者への訪問、相談対応などの個別支援を実施							
		・ふれあいサロン等の通いの場へ医療専門職を派遣し、フレイル予防などの健康教育やフレイル チェックを実施							
		・目標の実施率の8割以上に達しているため本評価とした。							
		3・やや遅 れている	指標(単位)	ふれあいサロンなどにおける医療専門職によるフレイル予防健康教育の開催 回数(回)					
			年 度	令和6年度			令和7年度	令和8年度	
			目 標	72			75	75	
			実 績	62			59		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】						
・ふれあいサロンや筋力アップトレーニング自主グループ等へ医療専門職を派遣し、フレイル予防な どの健康教育やフレイルチェックを実施した。									
・開催を希望する団体が少なく目標回数の8割に満たなかったため、本評価とした。									

第2章 高齢者の日常生活を支える体制づくり

第1節 相談支援等の体制の充実

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等
1	高齢者相談センター （地域包括支援セン ター）の体制の充実	2・ 概ね 達成	指標(単位)	高齢者相談センターの事業評価における得点率(%) ※国が定める全国共通の評価指標に係る合計点数に対する本市の得点の割合			・日常生活圏域における地域ケ ア推進会議については、令和8 年度より予算化しており、体制 の整備を図る。 ・現状では地域ケア個別会議に おける事例の蓄積が市町村のみに 留まっているため、過去事例 のフィードバック及び入力様式 の統一を早急に進め、情報の共 有と利活用を円滑化させる。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	98.0	98.0	98.0	
			実 績	79.8	—		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・令和7年度実績については国からの調査が現在行われているところであり、実績値が確定次第の入力とする。 ・最新の実績値である令和6年度については、高齢者相談センターの取組状況自体は以前から大きな変化はない が、国による「地域包括支援センター事業評価」の実施方法が大幅に見直されたことを受け、同センターの平均 得点（8区分・6センター）は上記結果となった。特に「地域ケア個別会議」における課題分析や「地域ケア推 進会議」の未実施が目立ち、これらが減点の主な要因となっていることから、早急な改善対策が求められる。				
2	相談窓口等の周知 及び関係機関等の 連携強化	2・ 概ね 達成	指標(単位)	高齢者相談センターの認知度(%) ※窓口アンケートに回答のあった人のうち、高齢者相談センターを「知っている」と回答 した人の割合			・相談窓口における相談実施 時や、関係者が集まる会議の 場など様々な機会を捉えて高 齢者相談センターの周知に努 める。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	75.0	80.0	85.0	
			実 績	65.8	67.2		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・ホームページによる周知や、関係機関・地域関係者と連携し、パンフレット、ポスター等を利用して高齢者相 談センターを案内したことにより、目標値の8割以上の認知度となったことから本評価とした。				
3	地域ケア会議の活 用の推進	2・ 概ね 達成	指標(単位)	地域ケア会議の開催回数(回)			・高齢者の自立、要介護状態 になることの予防又は要介護 状態の重度化の防止に向け て、引き続き、各高齢者相談 センターが開催する地域ケア 個別会議及び市が主催する自 立支援型地域ケア会議を通じ て、介護支援専門員のケアマ ネジメントの質の向上及び地 域課題の把握に取り組んでい く。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	213	216	220	
			実 績	196	184		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・地域の関係者及び多職種（医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士及び作業療法士）の 参画を得て、地域ケア会議を開催し、事例検討を行うことにより、関係者間のネットワークを構築す るとともに、地域における高齢者の自立した日常生活の継続に寄与した。 ・目標とする開催回数の9割以上の開催実績があったことから本評価とした。				

第2節 高齢者福祉サービスの充実

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等
1	敬老事業の推進	2・ 概ね達成	指標(単位)	福祉・介護分野における絆サポート券取扱店の件数(件)			・ 高齢者が福祉・介護分野において、絆サポート券をより利用しやすい環境にするため、取扱店のすそ野が広がるよう関係課と取り組んでいく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	9	12	15	
			実 績	9	10		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・ 絆サポート券の取扱店について、介護サービス提供事業所（施設）、介護タクシー、移動スーパーなど福祉・介護分野を幅広くカバーし、目標値の8割以上に達していることから本評価とした。				
2	緊急通報システムの普及	3・ やや遅れている	指標(単位)	緊急通報システムの設置台数(台)			・ 令和8年度から携帯型を導入し、対象者を拡大した。利用者の増加に向けて引き続き周知を行っていく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	146	156	166	
			実 績	123	124		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・ 広報紙において事業の周知を行い、ひとり暮らし高齢者等が緊急時に救急車を呼ぶことができる機器の貸与、定期的な安否確認や電話健康相談を実施 ・ 前年度と同水準の実績値であったが、目標の設置台数の8割を下回ったことから本評価とした。				
3	配食サービスの普及	3・ やや遅れている	指標(単位)	配食サービスの実利用者数(人)			・ 引き続き、必要とする人がサービスを利用できるよう事業の周知に努めるとともに、今後の適正な事業の実施方法等について検討していく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	250	255	260	
			実 績	181	189		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・ 自力で調理を行うことが困難な高齢者等へ委託事業者が食事を提供するとともに、安否確認を実施 ・ サービスの適正利用を目的として、事業の対象者を精査したことや、民間サービスを選択した方が増えたことにより、利用者数が目標値の8割を下回ったため本評価とした。				

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等
4	コミュニティバス 等による高齢者の 移動支援	1・ 目標を達成	指標(単位)①	デマンド型乗合タクシーを利用する65歳以上の市民の数(人/日)			・引き続き、携帯端末のアプリ ケーションによる利用登録と予 約についての周知を図る。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	88	92	96	
			実 績	104	95		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・利用者数が目標値を上回り、コミュニティバス等による高齢者の移動支援を図ることができたため、本評価と した。				
		1・ 目標を達成	指標(単位)②	介護予防・生活支援サービスにおける訪問サービスのサービス内容の見直し			・高齢者の外出機会を確保し、 自立支援・重度化防止に資する よう、高齢者相談センター等の 関係団体へサービス利用につな がるよう周知を行っていく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	サービス内容の検討	サービス内容の検討	見直し後のサービスの提供	
			実 績	サービス内容の検討	サービス内容の検討		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・介護予防生活支援サービス事業に当たる「訪問サービスD」について、制度設計等に係る要綱を整備するとと もに予算化を図った。 ・住民主体で提供するサービスであるため、担い手となるサービス提供団体へ事業の案内を行い、登録につなげ た。				
5	生活困窮者等の自 立の支援	2・ 概ね達成	指標(単位)	生活困窮課題の解決率(%) ※生活困窮に関する相談受付件数のうち解決できた相談件数の割合			・関係機関と連携し支援プラン を作成しているが、相談者の高 齢化や相談内容の多様化・複雑 化等により、複数年にわたり継 続相談・支援するケースがあ る。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	100	100	100	
			実 績	95.4	97.9		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・生活困窮者が自立した生活が送れるよう支援プランを作成し、関係機関等と連携して生活基盤の調整、就労支 援を実施 ・支援プラン作成までに至らない短期間での支援を含めると課題解決は全体の9割を超えていることから本評価 とした。				
		・困窮状態が複雑化・深刻化す る前に介入して早期に支援が行 えるよう関係機関との連携を密 にする。					
6	介護サービスの利 用に係る負担の軽 減	2・ 概ね達成	指標(単位)	介護サービス利用者負担助成の利用率(%) ※介護サービス利用者負担助成の対象となる人のうち、利用した人の割合			・対象者への勧奨通知を毎月送 付し、申請促進を図る。 ・事業を実施している社会福祉 法人やケアマネジャーに対し、 制度周知を依頼し、低所得者の 利用促進を図る。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	95.0	95.0	95.0	
			実 績	93.3	93.8		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・未申請者へ勧奨通知を毎月送付することにより周知を図り、支給申請を随時受け付けたことで、目標の利用率 に近づいたため、本評価とした。				

第3節 家族介護者等（ケアラー）への支援の充実

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等		
1	家族介護者等の介護負担軽減のための支援	2・概ね達成	指標(単位)	高齢者相談センターによる介護に関する相談支援件数(件) ※高齢者相談センターが実施する高齢者総合相談支援事業における介護に関する相談支援件数				・引き続き、高齢者相談センターと関係機関・関係団体との連携の強化に取り組む。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	2,300		2,500			2,700
			実 績	2,421		2,383			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・高齢者相談センターと連携し、家族介護者などからの相談に応じ、必要な助言や情報提供を行うとともに、相談支援機関につないだ。 ・地域住民が主体となって開催している介護者サロンなどの情報を収集し、情報提供を行った。 ・介護休業制度に関する情報提供を行った。 ・実績が目標値をやや下回ったため、本評価とした。						
2	家族介護者慰労金の支給	2・概ね達成	指標(単位)	家族介護者慰労金の延べ受給者数(人)				・引き続き、事業の周知に努めるとともに、今後の適正な事業の実施方法等について検討していく。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	2,110		2,120			2,130
			実 績	2,054		2,107			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・要介護4又は5の認定を受けた高齢者を在宅で介護する家族介護者に対し、ねたきり高齢者等居宅介護者慰労金を支給した。 ・目標値を下回ったものの、在宅で介護を行う介護者の支援につながり、目標値の9割以上に達していることから本評価とした。						
3	家族介護用品の支給	2・概ね達成	指標(単位)	家族介護用品の利用者数(人)				・引き続き、事業の周知に努めるとともに、今後の適正な事業の実施方法等について検討していく。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	46		51			56
			実 績	37		44			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・在宅で要介護状態となっている高齢者を常時介護している介護者に対し、紙おむつ等の介護用品を支給 ・核家族の高齢化により在宅介護者が減ったものの、利用者数が目標値の8割以上に達していることから本評価とした。						

第4節 高齢者の居住支援

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等	
1	高齢者の安定的な 生活の場の確保	1・ 目標を達成	指標(単位)	養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム及びサービス付き高齢者向け住宅の入所総定員数(人) ※有料老人ホーム及びサービス付き高齢者向け住宅は、特定施設入居者生活介護の指定を受けていない住宅型有料老人ホームに限る。				・緊急に利用が必要となる場合に備え、適宜、入所施設における空き状況等を把握する。 ・入所措置された高齢者の身体状況等を定期的に確認し、必要に応じて介護サービスの利用につなげる。 ・県と連携し、有料老人ホーム等の必要利用定員数及び質の確保を図る。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	290	290	290		
			実 績	290	316			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・各施設において必要な定員数（目標数）を確保することが出来ていることから本評価とした。					
2	居宅環境の改善支援	2・概ね達成	指標(単位)①	住宅改修手続への支援件数(件)				・制度周知のため、引き続き、窓口やケアマネジャー会議等で説明を行っていく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	12	14	16		
			実 績	6	13			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・住宅改修支援事業手数料の支給申請を随時受け付け、介護支援専門員等へ理由書作成手数料の支給を行い、目標値に近づいたことから本評価とした。					
		4・大幅に遅れている	指標(単位)②	要介護等認定に該当しない高齢者に対する住宅改修費助成事業の実施				・事業を継続しながら必要に応じて今後見直しを行う。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	事業開始	事業実施	事業実施		
			実 績	事業開始	申請・助成なし			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・広報で事業内容を周知し、要介護認定において非該当となった対象者に対して本事業の案内を送付したが、申請及び助成には至らなかった。					

第5節 地域で高齢者を支え合う仕組みづくり

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等
1	自治協力団体の活動の促進	2・概ね達成	指標(単位)	過去1年間に自治会活動に参加したことがある市民世帯の割合(%) ※全自治協力団体の平均			・市ホームページや広報紙等を通じ、自治会活動の重要性や意義を周知、啓発する。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	61.0	62.0	63.0	
			実 績	34.0	54.8		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・自治会の各種活動自体が活発化したことに伴い、活動に参加する世帯が徐々に増加しつつあり、目標の8割を超えたため本評価とした。				
2	地域通貨を活用した地域福祉サービスの普及	1・目標を達成	指標(単位)	おたすけサポーターの年間活動時間数(時間) ※「ちょこっとおたすけ絆サポート券」の利用による地域支え合いサービスの年間利用時間数＝サポーターの活動時間数			・引き続き、加須市商工会や関係各課と連携しながら絆サポート事業の周知を図る。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	2,900	3,000	3,100	
			実 績	2,703	3,074		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・加須市商工会や関係各課と連携し、事業のPRを行った結果、おたすけサポーターの年間活動時間数が目標を上回ったため、本評価とした。				
3	地域ブロンズ会議の設置・活動の推進	2・概ね達成	指標(単位)	第3層地域ブロンズ会議が設置されている地域の数(箇所)			・引き続き、高齢者相談センターと連携し、自治協力団体をはじめとする地域住民に対し、地域ブロンズ会議の周知及び設立趣旨の共有を図っていく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	56	62	68	
			実 績	53	60		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・生活支援コーディネーター及び高齢者相談センターと連携し、自治協力団体を中心とした地域住民に第3層地域ブロンズ会議設置の趣旨等を説明し、協議を重ねた結果、設置数が目標の8割以上に達したことから本評価とした。				

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等		
4	地域の実情に応じた生活支援体制の整備	3・やや遅れている	指標(単位)	第2層生活支援コーディネーターの年間活動件数(件) ※社会福祉協議会支部ごとの区域の範囲において活動する生活支援コーディネーター				・引き続き、高齢者相談センターと連携し、自治協力団体をはじめとする地域住民に対し、地域ブロンズ会議の周知及び設立趣旨の共有を図っていく。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	265		270			275
			実 績	275		225			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・高齢者相談センターと連携し、各地域ブロンズ会議の運営状況の確認や意見交換、情報提供その他ブロンズ会議の円滑な運営及び具体的な取組の実施のために支援を行った結果、活動件数が目標の8割以上に達したことから本評価とした。						
5	交通安全対策の推進	3・やや遅れている	指標(単位)	参加・実践型高齢者交通安全教室の参加者数(人)				・参加者の募集方法や教室の実施内容などについて検討し、より多くの参加者を募集できるように改善を図る。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	140		170			200
			実 績	124		124			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・加須警察署、埼玉自動車学校、あいおいニッセイ同和損害保険㈱と連携を図りながら、参加・実践型高齢者交通安全教室を年4回開催した。 ・高齢介護課等が開催する会議・イベント等に、高齢者の交通事故の特徴を踏まえた交通安全に関する啓発チラシを配布した。 ・参加者数が目標値の8割に達していないことから本評価とした。						
6	地域における防犯活動の推進	2・概ね達成	指標(単位)	自主防犯組織の組織率(%) ※自治協力団体加入団体のうち、自主防犯組織を設置している自治協力団体の割合				・地域における防犯活動の活性化を図るため、加須警察署と連携し、講習会を実施する。 ・自主防犯団体の組織及び活動状況を把握するため、定期的に実態調査を行う。 ・自主防犯組織未設立の自治協力団体へ、引き続き、危機管理防災課と連携し、設立依頼を行う。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	95.5		100.0			100.0
			実 績	81.6		83.4			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・危機管理防災課と連携し、設立依頼を行い、令和7年度に新たに5つの自主防犯組織が設立され、目標の組織率の8割以上に達していることから本評価とした。						
7	消費者被害の防止	1・目標を達成	指標(単位)	消費生活センターにおける65歳以上の消費生活相談件数(件)				・引き続き、潜在被害者及び相談者に重点をおいた相談体制を周知する。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	220		230			240
			実 績	221		250			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・消費生活センターへの相談件数623件のうち65歳以上の相談は250件、全体の約4割であった。 ・高齢者サロンでの講座や高齢者相談センター職員対象の見守り講座等で消費生活センターの認知度向上に努めた。 ・相談件数が目標値に達するとともに、相談者に適切なあっせん、助言等ができたことから本評価とした。						

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等		
8	協力事業者による 見守り体制の構築	1・ 目標を 達成	指標(単位)	あんしん見守りサポート事業協力事業者数(社)				・新たな協力事業者の発掘を行う。 ・ホームページ等で事業のPRを行う。 ・熱中症の危険性を意識した見守り活動の実施について、協力事業者へ依頼する。 (参考) 過去の報告件数 令和3年度 3件 令和4年度 2件 令和5年度 3件 令和6年度 1件 令和7年度 3件	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	57		59			61
			実 績	61		61			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・協力事業者数が目標値に達し、通報案件については全て適切に対応・処理するとともに、熱中症の危険性を意識した見守り活動の実施について協力事業者へ依頼し、更なる協力体制の充実を図ることができたことから本評価とした。なお、協力事業者から市への報告件数は3件であった。						
9	行方不明者の早期 発見支援	1・ 目標を 達成	指標(単位)	行方不明者情報の適正な情報共有(%) ※行方不明者情報を早期発見につなげるための届出者の希望する関係機関へ迅速に共有できた割合				・一刻を争うことが考えられるため、迅速な事務処理に努めるとともに、関係部署との連携を密にしておく。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	100		100			100
			実 績	100		100			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・届出のあった行方不明者は全て発見に至り、防災無線の放送、民生委員や自治会等への情報提供により、官民が協力して事業を行うことができたことから本評価とした。						
10	災害時要援護者への 支援	2・ 概ね 達成	指標(単位)	災害時要援護者名簿における避難援助者の登録率(%) ※災害時要援護者名簿に登録されている人のうち、避難援助者の登録がある人の割合				・名簿未登録者への働きかけは行っているが、登録の必要性を感じないなどの理由で登録意向がない人が固定化しつつあると考えられる。 ・ひとり暮らし高齢者及び高齢者のみ世帯のうち、災害時の避難に支援が必要な人の避難支援者の登録促進、地域による支援体制の構築の検討を促進する。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	47.0		48.0			49.0
			実 績	46.8		46.3			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・引き続き民生委員・児童委員による高齢者世帯訪問時や障害者手帳所持者への災害時要援護者制度の周知を行ったが、目標値を下回ったため本評価とした。なお、登録者の死亡数や施設入所数が新規登録者数を上回ったものと考えられ、登録者数が減少した。 ・令和7年度末 災害時要援護者名簿登録者数 6,453名(243名減) 上記のうち避難支援者の登録がある者 2,985名(147名減) … () 内は、前年度末との比較						
11	歩行に配慮を要する人のための駐車 区画の適正利用の 推進	2・ 概ね 達成	指標(単位)	市内の公共施設における青色塗装区画等が整備されている数(箇所) ※車椅子使用者が優先的に利用できる幅員3.5メートル以上の青色に塗装された「車椅子使用者用駐車区画」及び障がい者、高齢者などを対象とした幅員3.5メートル未満の「優先駐車区画」				・引き続き、関係各課と連携しながら整備を行う。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	45		50			55
			実 績	39		41			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・市内の公共施設における歩行が困難な人のための駐車区画の整備を2施設で実施 ・整備箇所数が目標値の8割以上を達成したことから本評価とした。						

第3章 認知症の人とその家族等にやさしい地域づくり

第1節 認知症に関する普及啓発・本人発信の支援

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等	
1	認知症への理解の 促進	2・ 概ね達成	指標(単位)	認知症サポーターの養成人数の累計(人)				・より多くの人に認知症への理 解を深めてもらえるよう、認知 症地域支援推進員やキャラバン メイトとともに、認知症サポ ーター養成講座の実施方法、周知 方法、開催場所などを検討し、 計画的に講座を開催する。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	6,600	7,000	7,400		
			実 績	6,350	6,766			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】					
・認知症サポーター養成講座を18回実施								
・上記取組を実施し、目標の養成人数の8割以上の実績値となったことから本評価とした。								
2	認知症に関する相 談体制の周知	2・ 概ね達成	指標(単位)	認知症に関する相談窓口の認知度(%) ※窓口アンケートに回答のあった人のうち、認知症に関する相談窓口を「知っている」と 回答した人の割合				・引き続き、認知症に関する相 談窓口の周知と正しい理解の普 及に努める。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	58.0	63.0	68.0		
			実 績	57.5	53.3			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】					
・市内高齢者相談センターの認知症ケア相談室において、認知症の人やその家族等への相談支援の実 施と認知症の正しい理解の普及に努めた。								
・市や高齢者相談センターのホームページにおいて、認知症に関する相談窓口を周知								
・上記取組等により、認知度が概ね目標値に達していることから本評価とした。								
3	認知症の人本人に よる発信機会の拡 大	4・ 大幅に遅 れている	指標(単位)	「本人ミーティング」の実施回数(回)				・認知症カフェやチームオレン ジ活動の場で、本人ミーティ ングの取組を行う。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	1	2	3		
			実 績	0	0			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】					
・認知症地域支援推進員会議において、本人ミーティングの意義や実施方法等について共有を図ったが、開催に は至らなかったため本評価とした。								
・本人発信の取組として、認知症であるご本人3名ハインタビューを実施し、その内容を認知症講演会等で紹介 することで、参加者に対して当事者の声を広く周知することができた。								

第2節 認知症予防活動の推進

No	具体的な施策 または取組項目	
1	教室や講座などを活用した介護予防の啓発 【再掲】	※第1章「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」 第2節「高齢者の介護予防」のNo.2「教室や講座などを活用した介護予防の啓発」を参照（14ページ）
2	通いの場（ふれあいサロン）の拡充 【再掲】	※第1章「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」 第2節「高齢者の介護予防」のNo.4「通いの場（ふれあいサロン）の拡充」を参照（15ページ）
3	生涯学習活動の推進 【再掲】	※第1章「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」 第2節「高齢者の介護予防」のNo.7「生涯学習活動の推進」を参照（16ページ）
4	スポーツ教室の推進 【再掲】	※第1章「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」 第2節「高齢者の介護予防」のNo.8「スポーツ教室の推進」を参照（16ページ）
5	グラウンド・ゴルフの推進 【再掲】	※第1章「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」 第2節「高齢者の介護予防」のNo.9「グラウンド・ゴルフの推進」を参照（16ページ）
6	ウォーキングの推進 【再掲】	※第1章「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」 第2節「高齢者の介護予防」のNo.10「ウォーキングの推進」を参照（17ページ）
7	シルバー人材センターへの支援 【再掲】	※第1章「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」 第2節「高齢者の介護予防」のNo.11「シルバー人材センターへの支援」を参照（17ページ）

No	具体的な施策 または取組項目	
8	高齢者の雇用促進 【再掲】	※第1章「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」 第2節「高齢者の介護予防」のNo.12「高齢者の雇用促進」を参照（17ページ）
9	世代間交流の推進 【再掲】	※第1章「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」 第2節「高齢者の介護予防」のNo.13「世代間交流の推進」を参照（18ページ）
10	高齢者の交流事業への支援 【再掲】	※第1章「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」 第2節「高齢者の介護予防」のNo.14「高齢者の交流事業への支援」を参照（18ページ）
11	元気な高齢者のボランティア活動への参加の促進 【再掲】	※第1章「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」 第2節「高齢者の介護予防」のNo.15「元気な高齢者のボランティア活動への参加の促進」を参照（18ページ）
12	学校応援団への参加の推進 【再掲】	※第1章「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」 第2節「高齢者の介護予防」のNo.16「学校応援団への参加の推進」を参照（19ページ）
13	生きがい農業の推進 【再掲】	※第1章「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」 第2節「高齢者の介護予防」のNo.17「生きがい農業の推進」を参照（19ページ）
14	老人クラブの活動支援 【再掲】	※第1章「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」 第2節「高齢者の介護予防」のNo.18「老人クラブの活動支援」を参照（19ページ）

第3節 認知症の人とその家族等への支援

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等	
1	認知症ケアパスによる情報提供	2・概ね達成	指標(単位)	認知症ケアパスの認知度(%) ※窓口アンケートに回答のあった人のうち、認知症ケアパスを「知っている」と回答した人の割合				・認知症の普及啓発事業や介護予防教室実施時に、市民や関係機関に対して、認知症ケアパスの周知に取り組んでいく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	33.0	37.0	41.0		
			実 績	27.5	34.3			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・市で作成・配布している「正しく知ろう認知症（認知症パンフレット）」を用い、認知症の理解に関する普及啓発を行い、認知症予防と早期発見・早期治療の周知に努めた。 ・上記取組等により、目標値の8割以上の認知度に達していることから本評価とした。					
2	認知症地域支援推進員による支援	1・目標を達成	指標(単位)	認知症地域支援推進員会議の開催				・引き続き、定期的に会議を開催し、情報共有及び意見交換を行う。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	3	3	3		
			実 績	3	3			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・認知症地域支援推進員会議を3回開催 ・認知症地域支援推進員と市担当者で、市の認知症施策についての情報共有や活動内容を検討することができた。 ・上記取組により、目標の会議開催数を達成したため本評価とした。					
3	認知症初期集中支援チームによる支援	4・大幅に遅れている	指標(単位)	認知症初期集中支援チームによる支援によって、医療・介護サービスにつながった人の割合(%)				・新たな認知症サポート医を選任し、チーム員に「精神保健福祉士」を新たに追加することで、困難事例に対してもより専門的かつ多角的なアプローチが可能な体制へと強化する。 ・各高齢者相談センターに認知症初期集中支援チーム員を2名ずつ引き続き配置する。 ・市民や居宅介護支援事業所など関係機関への周知を行う。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	100	100	100		
			実 績	88.9	0.0			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・認知症サポート医においてやむを得ない事情が生じ、年度を通じて認知症初期集中支援チーム員会議を開催することが困難となった。代替措置として、事例検討会および研修会を実施し、関係者の資質向上に努めたものの、チームとしての本来の個別支援活動の実績が生じなかったため本評価とした。					

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等
4	関係機関の連携による切れ目のない支援	1・目標を達成	指標(単位)	認知症に関する関係機関の連携に資する会議などの実施回数(回)			・引き続き、既存のネットワークや会議体を有効に活用しながら、認知症疾患医療センターや北埼玉在宅医療連携室等の関係機関との連携を推進する。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	2	2	2	
			実 績	2	2		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・認知症初期集中支援チームと認知症疾患医療センターとの合同研修会と在宅医療・介護連携推進委員会と兼ねた初期集中支援チーム検討委員会を開催し、専門医療機関や多職種を交えた、より包括的かつ効果的な連携体制が構築できた。 ・上記取組により目標の会議実施回数を達成したため本評価とした。				
5	成年後見制度の利用促進	4・大幅に遅れている	指標(単位)	市長による法定後見開始の審判申立の実施件数(件)			・定期的に高齢者相談センター等の関係機関と情報共有を行い、市長申立案件があった際には、迅速に手続を進めていく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	5	5	5	
			実 績	2	1		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・高齢者相談センター等の関係機関と連携しながら、成年後見制度の利用に関する相談支援を実施し、市長申立をすべき案件が生じた場合は、申立書類を作成し、申立を実施 ・過去に市長申立を実施した案件のうち、報酬助成の申請があった案件に関しては、報酬助成を実施 ・審判申立件数が、目標件数の5割未満であったことから本評価とした。				
6	高齢者虐待の防止	3・やや遅れている	指標(単位)	高齢者虐待に関する相談通報窓口の認知度(%) ※窓口アンケートに回答のあった人のうち、高齢者虐待に関する相談通報窓口を「知っている」と回答した人の割合			・定期的に高齢者相談センター等の関係機関と情報共有を行い、市長申立案件があった際には、迅速に手続を進めていく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	51.0	56.0	61.0	
			実 績	46.7	43.8		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・高齢者虐待通報を受理し、虐待状況の改善に向けた支援を実施 ・高齢者虐待及び消費者被害防止ネットワーク会議を開催し、関係機関による情報共有を推進 ・民生委員や介護関連機関等へ的高齢者虐待通報窓口の周知や情報共有の依頼等を実施 ・上記対応等を実施したものの、目標の認知度の8割未満であったため本評価とした。				

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等	
7	認知症の人の日常生活への支援 (チームオレンジの整備)	2・概ね達成	指標(単位)	チームオレンジの整備数(箇所)				・認知症サポーターの実践的な活動につなげるため、ステップアップ講座を実施する。 ・チームオレンジの活動を広く周知する。 ・引き続き、新規チームオレンジの整備に向けて取り組む。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	4	5	6		
			実 績	4	4			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・チームオレンジの活動を支援 ・認知症の人やその家族との対話から活動につなげていくことが重要であり、各認知症地域支援推進員の活動を情報共有し、チームオレンジを整備 ・認知症サポーターステップアップ講座を実施 ・上記取組を行ったが新規チームの立ち上げには至らなかったため、本評価とした。					
8	行方不明時の早期発見・保護	2・概ね達成	指標(単位)	行方不明になった後に保護された65歳以上の人のうち位置探索サービスなどの利用につながった人の割合(%)				・位置情報端末機器とステッカーの利用者減少のため、GPSの対象機器に靴内蔵型を追加及び二次元コード付きステッカーへの変更を行う。 ・引き続き、市民や居宅介護支援事業所など関係機関に対し、新サービス内容等事業についての周知を行う。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	65.0	70.0	75.0		
			実 績	63.6	62.5			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・利用を希望する介護者等に位置特定端末の機器の利用に係る費用の一部を助成 ・利用を希望する介護者等に行方不明高齢者等早期発見ステッカーを配付 ・事業の周知（行方不明となるおそれのある者の家族への利用勧奨等）に努め、目標値の8割以上に達したことから本評価とした。					
9	地域における防犯活動の推進 【再掲】	※第2章「高齢者の日常生活を支える体制づくり」 第5節「地域で高齢者を支え合う仕組みづくり」のNo.6「地域における防犯活動の推進」を参照（28ページ）						
10	消費者被害の防止 【再掲】	※第2章「高齢者の日常生活を支える体制づくり」 第5節「地域で高齢者を支え合う仕組みづくり」のNo.7「消費者被害の防止」を参照（28ページ）						

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等	
11	認知症の人の社会 参加の促進（認知 症カフェの普及 等）	1・ 目標を 達成	指標(単位)	認知症カフェの設置箇所数(箇所)				・各団体等へ補助金交付の周知を図る。 ・認知症地域支援推進員会議において、認知症カフェの活用などについて検討する。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	8	9	10		
			実 績	9	10			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・認知症の人とその家族等の交流の場となる認知症カフェを開催する団体に対し、補助金を交付し、団体への支援を行った。 ・上記取組などの効果により、目標の設置箇所数を達成していることから本評価とした。					
12	認知症の特性を踏 まえた介護サービ スの提供・確保	2・ 概ね 達成	指標(単位)	認知症対応型サービス従事者の認知症介護基礎研修の受講率(%) ※認知症高齢者グループホーム又は認知症対応型通所介護の事業に従事している医療・福祉関係の資格を有していない介護職員のうち、認知症介護基礎研修を修了した人の割合				・介護従事者の認知症対応力の向上を図るため、引き続き、介護サービス事業所に対し、認知症介護基礎研修等の受講案内を行う。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	100	100	100		
			実 績	80.0	86.7			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・介護事業所に対し、埼玉県認知症介護基礎研修の受講案内の周知を行い、受講率の実績値が目標値の8割となったことから本評価とした。					

第4章 在宅医療・介護サービス提供体制等の充実

第1節 在宅医療・介護連携の推進

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等
1	在宅医療・介護連 携の推進	1・ 目 標 を 達 成	指標(単位)	「北彩あんしんリング」に登録している医療・介護関係者の数(人)			・在宅医療・介護連携の相談 窓口の運営について、引き続 き北埼玉医師会に委託して実 施し、高い専門性を確保する とともに、多職種研修会等の 機会を設定し、「北彩あんし んリング」の一層の普及を図 る。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	186	204	222	
			実 績	204	241		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】				
			・医療・介護関係者が連携し、「入退院支援ルール」や自宅や介護施設などにおける「看取り」の普 及啓発に努めている。 ・「北彩あんしんリング」に登録している医療・介護関係者数が、目標を上回ったため、本評価とし た。				

第2節 特別養護老人ホーム等の介護施設等の整備

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等	
1	特別養護老人ホーム等の介護施設等の整備	3・やや遅れている	指標(単位)①	特別養護老人ホームの整備(定員100人)				・施設整備に向けた手続等の進捗状況を把握し、必要に応じて指導助言を行う。 ・公的補助金を適正に交付する。 ・次期高齢者支援計画の策定に当たり、必要床数を把握する。 ・介護施設等の整備に関する相談に対応する。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	県協議	整備	竣工		
			実 績	なし	県協議			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】					
		・介護施設等の整備に関する相談に適切に対応することができた。 ・県協議の結果、計画より1年遅れて、特別養護老人ホームの整備が決定したことから本評価とした。						
		3・やや遅れている	指標(単位)②	認知症高齢者グループホームの整備(定員18人)				・令和8年度に看護小規模多機能型居宅介護事業所と併せ、公募・選定を行う予定である。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	公募・選定			整備・竣工	
			実 績	公募準備	公募			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】					
		・各事業所が開催する運営推進会議に市職員も出席し、ニーズや課題の収集に努めた。これらの情報を踏まえて公募書類を作成し、公募・選定に繋げることとする。						
		3・やや遅れている	指標(単位)③	看護小規模多機能型居宅介護事業所の整備(登録定員29人)				・令和7年度の公募結果を受け、令和8年度においても看護小規模多機能型居宅介護事業所の整備に向け、公募を行っていく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	公募・選定	整備・竣工	開設		
			実 績	公募	公募			
【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】								
・医療と介護ニーズに複合的に対応できる看護小規模多機能型居宅介護事業所の整備に向けて、令和7年7月22日から8月29日まで公募を実施した。しかし、応募がなかったため、募集期間を同年9月12日まで公募を延長した。その結果、1事業者から応募があったが、審査の結果、選定には至らなかった。								

第3節 介護人材の確保及び介護現場の生産性の向上の推進等

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等		
1	介護人材の確保・ 定着及び資質の向上	2・ 概ね 達成	指標(単位)	市内の居宅介護支援事業所に従事する主任介護支援専門員の数(人)				・生産年齢人口の減少や高齢化に伴う介護需要の増加により見込まれる介護人材の不足に備え、介護に携わる専門職を確保するための取組を推進するとともに、複雑化・多様化する高齢者支援ニーズに適切に対応できるよう、介護職員の質の向上を図る必要がある。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	44		48			52
			実 績	36		47			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・介護人材の確保を図るため、介護福祉士や介護支援専門員の資格試験の受験手数料に対する助成を行った。 ・介護人材のすそ野を広げるための介護に関する入門的研修を開催した。 ・市内の居宅介護支援事業所に従事する主任介護支援専門員の数が目標値の8割以上に達していることから、本評価とした。						
2	介護現場の生産性の 向上の推進等	1・ 目標を 達成	指標(単位)	電子申請・届出システムの運用				・引き続き、介護サービス事業所へ当該システムの周知を行う。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	運用準備		運用開始			運用
			実 績	運用開始		運用			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・介護サービスに係る申請及び届出について、電子申請・届出システムにより受け付けるとともに、介護サービス事業所へ当該システムの周知を行った。						

第5章 高齢者の安心安全のための災害・感染症への備え

第1節 災害に対する備え

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等		
1	災害に対する備え	2・概ね達成	指標(単位)	自主防災組織の組織率(%) ※自治協力団体加入団体のうち自主防災組織を設置している自治協力団体の割合				・自主防災組織未設立団体に個別に連絡を行い、設立を促進する。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	100		100			100
			実 績	94.5		94.5			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・自主防災組織未設立団体代表者に対し、自主防災組織設立に関する依頼を行った。しかし、令和7年度に新たに設立した団体はなく、10団体が未設立であり、目標値である組織率100パーセントには達しなかったことから本評価とした。						
		2・概ね達成	指標(単位)	災害時要援護者名簿における避難援助者の登録率(%) ※災害時要援護者名簿に登録されている人のうち、避難援助者の登録がある人の割合				・名簿未登録者への働きかけは行っているが、登録の必要性を感じないなどの理由で登録意向がない人が固定化しつつあると考えられる。 ・ひとり暮らし高齢者及び高齢者のみ世帯のうち、災害時の避難に支援が必要な人の避難支援者の登録促進、地域による支援体制の構築の検討を促進する。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	47.0		48.0			49.0
			実 績	46.8		46.3			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・引き続き、民生委員・児童委員による高齢者世帯訪問時や障害者手帳所持者への災害時要援護者制度の周知を行ったが、目標値を下回ったため本評価とした。なお、登録者の死亡数や施設入所数が新規登録者数を上回ったものと考えられ、登録者数が減少した。 ・令和7年度末 災害時要援護者名簿登録者数 6,453名(243名減) 上記のうち避難支援者の登録がある者 2,985名(147名減) …()内は、前年度末との比較						
		1・目標を達成	指標(単位)	非常災害対策が実施されている介護施設の割合(%) ※水防法又は介護保険関係法令の規定により避難確保計画又は非常災害対策計画の作成及び避難訓練の実施が義務付けられている市内の介護施設のうち、これらの対策が適切に講じられている介護施設の割合				・引き続き、市内の全ての介護施設等で避難確保計画の策定や水害訓練が実施されるよう実施の促進を図る。	
			年 度	令和6年度		令和7年度			令和8年度
			目 標	100		100			100
			実 績	100		100			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・介護施設等における避難確保計画の策定及び水害避難訓練の実施を促進した。 ・全ての介護施設等(85箇所)において、避難確保計画が策定されるとともに、水害訓練が実施され、実施結果報告書が提出されたことから本評価とした。						

第2節 感染症に対する備え

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等	
1	感染症に対する備え	1・ 目標を達成	指標(単位)	感染症対策が実施されている介護施設の割合(%) ※市内の介護施設のうち、感染症対策が適切に講じられている介護施設の割合				・引き続き、感染症の発生状況を注視し、市の感染症対策等の情報を発信するとともに、介護施設における感染症対策の実施状況等の定期的な点検を行う。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	100	100	100		
			実 績	100	100			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】					
			・感染防止対策の実施状況及びBCP（業務継続計画）の策定状況について、市内の介護施設にアンケート調査を実施 ・市内の介護施設において、感染症対策及び業務継続計画の策定が適切に講じられているとの回答結果を踏まえ、本評価とした。					

第6章 介護保険制度の安定的な運営

第1節 介護保険料の収納確保

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等
1	介護保険料の収納 確保	2・概ね達成	指標(単位)	介護保険料(全体)の収納率(%)			・催告書送付による催告を行う。 ・滞納による介護サービスの給付制限があることを周知する。 ・第6段階以上の未納者について、差し押さえなどの滞納処分を検討する。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目 標	98.2	98.4	98.6	
			実 績	98.0	98.0		
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】				
			・65歳年齢到達者に対して、保険料の口座振替推奨文書を送付 ・未納者に対して、個別の送付相談を実施し、現年度未納分について催告書を送付 ・収納率が目標値の9割以上に達したため、本評価とした。 ※収納率の内訳 現年度分：99.37% 滞納繰越分：8.47%				

第2節 介護給付の適正化

No	具体的な施策 または取組項目	評価	【上段】成果・目標指標 【下段】評価の分析				分析を踏まえた改善点・ 今後の取組内容等	
1	介護給付の適正化	1・ 目標を達成	指標(単位) ①	委託により実施した要介護認定調査に係る結果の点検実施率(%)				・ 要介護認定を委託した場合については、引き続き点検を実施していく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	100	100	100		
			実 績	100	100			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・ 要介護認定調査を委託した28件について、すべて点検を行ったため本評価とした。					
		1・ 目標を達成	指標(単位) ②	ケアプランの点検数(件)				・ ケアプラン点検については、対象となるケースを精査しつつ点検数の確保に努める。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	110	120	130		
			実 績	115	128			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・ 令和7年12月から令和8年3月にかけて、市内22事業所を対象に計128件のケアプラン点検を実施し、点検数が目標値を超えたことから本評価とした。					
		3・ やや遅れている	指標(単位) ③	住宅改修費支給申請件数のうち、建築専門職が審査に関与した件数の割合(%) ※建築専門職には、福祉住環境コーディネーター検定試験2級以上の資格を有する者を含む。				・ 住宅改修費支給申請の審査については、担当職員の資格取得を推進していく。
			年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
			目 標	70.0	80.0	90.0		
			実 績	83.2	53.5			
			【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】 ・ 点検を実施する市職員4名のうち、1名が福祉住環境コーディネーターの資格を取得して審査に関与したものの、目標値の8割を下回ったため本評価とした。					

2・概ね達成	指標(単位) ④	10種類ある縦覧点検の帳票のうち、縦覧点検の対象とした1年間に出力された全件の点検を実施している帳票の数(種類)			・縦覧点検については、引き続き新たな帳票に係る点検の実施に向けた準備を進めていく。
	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	目 標	6	7	8	
	実 績	6	6		
	【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】				
	・縦覧点検については、例年同様に6帳票の点検を実施したことから本評価とした。				
2・概ね達成	指標(単位) ⑤	医療情報との突合の対象とした1年間の出力件数のうち点検した件数の割合(%)			・医療情報との突合については、国保連合会での委託では対応できないケースもあることから、これを補完する方法として、職員による点検の実施に向けた準備を進めていく。
	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	目 標	75.0	80.0	85.0	
	実 績	64.9	64.8		
	【指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析】				
	・医療情報との突合について、毎月、国保連合会に委託して点検を実施したが、目標値の8割を上回ったことから本評価とした。				